
食肉科研/行政情報等発信サービス

No.110 2018/4/13

1 世界保健機関（WHO）がリステリア症予防のためにアフリカの 16 カ国を支援

国立医薬品食品衛生研究所の安全情報部食品安全情報（微生物）No. 8/2018（2018.04.11）に標記記事が掲載されている。その主な内容は次のとおり。

世界保健機関（WHO）は、2017 年に南アフリカ共和国で発生し、現在、アフリカ大陸のその他の国の脅威となっているリステリア症アウトブレイクについて、アフリカの 16 カ国に準備と対応の支援を行なっている。

南アフリカ共和国では、同国で広く喫食されている ready-to-eat（そのまま喫食可能な）食肉製品の汚染が原因で 2017 年 1 月以降 200 人近くが死亡した。この食品は西アフリカの 2 カ国（ナイジェリア、ガーナ）、南部アフリカ開発共同体（SADC）加盟の 13 カ国（アンゴラ、ボツワナ、コンゴ民主共和国、レソト、マダガスカル、マラウイ、モーリシャス、モザンビーク、ナミビア、スワジランド、タンザニア、ザンビア、ジンバブエ）、およびウガンダに輸出された可能性がある。

南アフリカ共和国の公衆衛生当局は最近、同国の Polokwane（リンポポ州）にある工場をアウトブレイクの感染源と特定した。これを受け、同国の内外で当該食品の回収が実施された。しかし、リステリア症は潜伏期間が長いこと、および全国的な大規模回収には数々の困難が存在することから、今後も新たな患者が発生する可能性が高い。

WHO の健康危機管理プログラム（Health Emergencies programme）、グローバルアウトブレイク警報・対応ネットワーク（GOARN : Global Outbreak alert and Response Network）および国際食品安全当局ネットワーク（INFOSAN）が、可能性のあるアウトブレイクへの準備・検出・対応の能力強化のため、優先順位の高い上記 16 カ国に協力している。

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/2018/foodinfo201808m.pdf>